

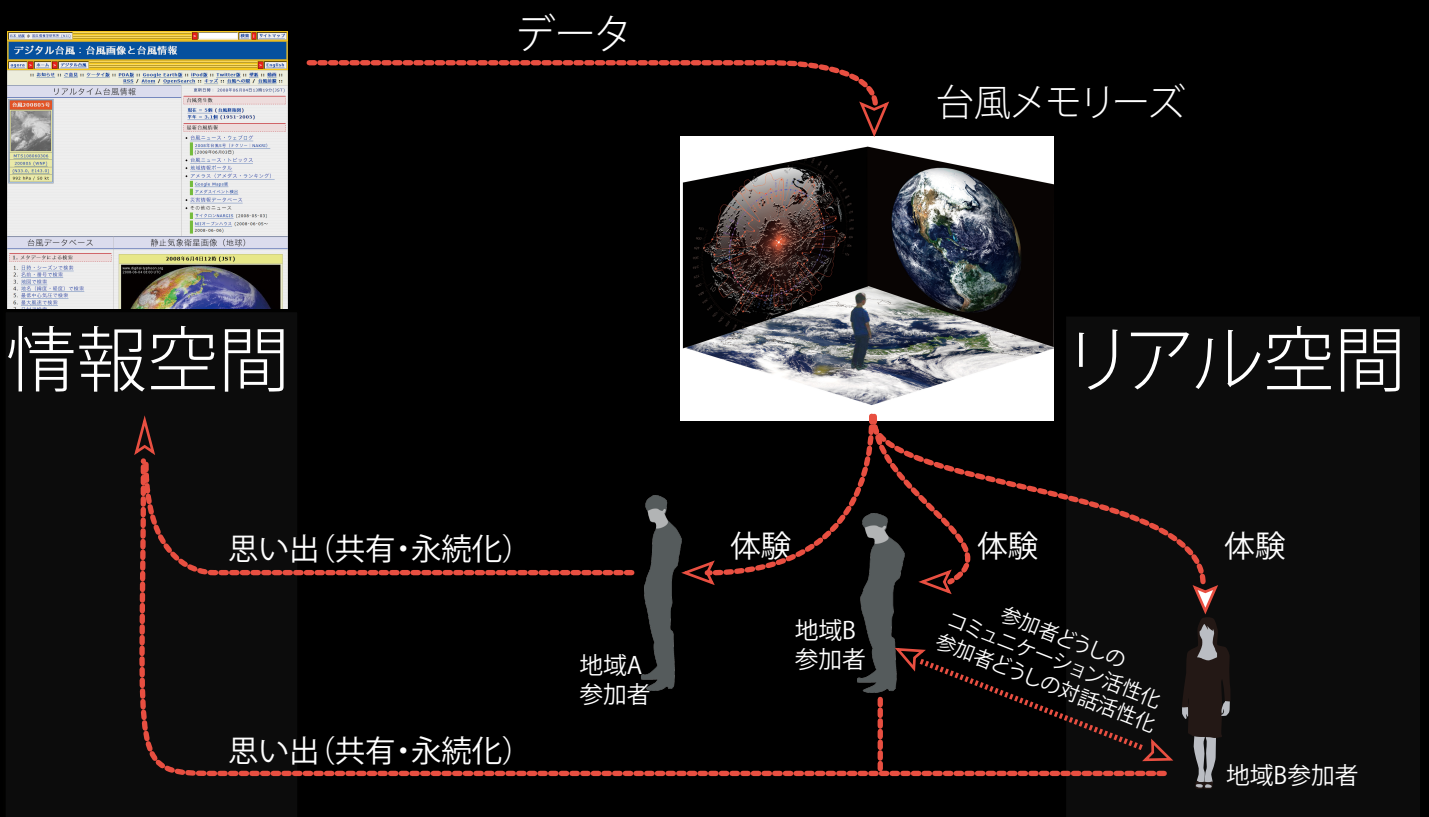


TYPHOON
MEMORIES

TYPHOON MEMORIES

一台風の記憶を個人から社会へ

- ◎ 台風に関する膨大な科学データを検索し、迫力ある映像として可視化。
- ◎ 大画面3面表示、可聴化、インタラクション機能によりデータを体感。
- ◎ 人々の記憶に残る台風を掘り起こし、地域・世代を超えて情報空間にアーカイブ。



記憶共有サイト

台風経験に触発された参加者が、過去の台風に関する自分の記憶を書きこめるウェブサイトを提供する。

インスタレーションを各地に巡回させることで、子供から老人までもが持つ台風の記憶を収集し、集合的記憶の参加型アーカイブを構築する。

リアル空間から知を引き出すきっかけを作るとともに、それを社会に還流させる仕組みを生み出し、防災対策への活用についてもその可能性を探る。

データ体感空間

1. 3面の大画面を用いて各種の科学データを可視化した画像(映像)空間
 2. マルチスピーカーを用いて各種の科学データを可聴化した音像空間
 3. 送風機を用いて科学データを実体化した風像空間(検討中)
 4. 赤外線を用いて参加者の動きを追跡するセンサ空間
- データの可視化や可聴化、インタラクティブ性により、台風という自然現象に関する豊かな視聴覚体験を提供し、科学コミュニケーションに有用な情報デザインを作り出す。

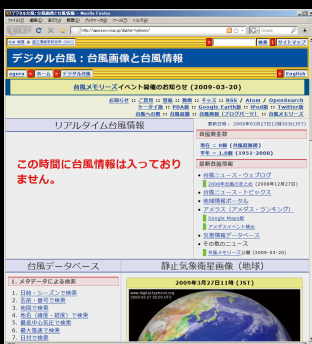


TYPHOON MEMORIES

一台風の記憶を個人から社会へ

国立情報学研究所 「デジタル台風」プロジェクト

気象学的・社会的に重要な「台風情報」を題材として、過去・現在・未来をつなぐデータベース、科学データと社会データの統合、参加型情報システムの可能性などの研究テーマを追究するプロジェクト。各種データはウェブサイトで積極的に公開している。



デジタル台風：台風画像と台風情報

<http://www.digital-typhoon.org/>

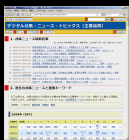
台風に関する科学的（公共的）データを中心にデータベースを提供。過去30年間の「ひまわり」画像や「アメダス」データを蓄積し、約16万件の台風画像データベースは世界有数の規模に達する。また災害情報データベースなども統合しており、「ここでしか検索できない」という機能やデータも多数。小学校等の理科教育にもよく利用されている。



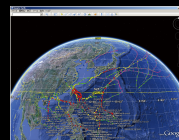
1976年以降の「アメダス」をデータベース化。集中豪雨の検索やリアルタイムのランキング、月ごとの動画などを提供。台風による大雨や強風の状況を確認することができる。



2003年以降の台風に関する台風専門ブログ。台風の状態に応じて「デジタル台風」ウェブサイトの使い方や重要な情報へのリンクを提供。また年ごとに台風の状態をまとめて読むことができる。



2003年以降のニュース記事をデータベース化。個々の台風の重要キーワードを自動的に表示。また地域ごとに分類された台風ニュースなどを用いて災害等の状況を確認することができる。



各種のデータは、ウェブブラウザだけではなく、ケータイやGoogle Earth、iPodなど、他の方法でも閲覧できる。各種のウェブサービスを活用して、データの利用・アクセスを促進。



台風前線

<http://front.eye.tc/>

台風に関する参加型システムを提供。個々の台風に関する現地の状況などを、ブログ（トラックバック）あるいはケータイメールを用いて、位置情報をつけて送ることができる。また送られてきた情報をFlashを用いたアニメーション地図として可視化し、台風の動きと発信者の情報との関連性を直接見られるようにした。平成19年度文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品。



「台風への眼」は、ブログ（トラックバック）あるいはケータイメール経由の情報を外部から受け付けるウェブサイト。ここで集めた情報を、台風前線のシステムで可視化することができる。



「ケータイ版」は台風情報をケータイで確認できるサイト。最新の台風情報や衛星画像をチェックできるだけでなく、ケータイメールから送信された各地の情報なども閲覧できる。



「台風画報」ブログパーツは、最新の台風情報をブログ等で簡単に公開できるだけでなく、台風前線等で収集した情報を「印象的に」表示することで、参加型システムのリーチを広げる役割を担う。



「台風メモリーズ」は、このような参加型システム群の一つと位置づけられる。ただし現在発生中の台風に関する新鮮な情報よりも、過去の台風に関する記憶を収集することを目的としている。

その他、複数のウェブサイト（3つぐらい？）を2009年にオープン予定！ご期待を！



TYPHOON
MEMORIES

TYPHOON MEMORIES

一台風の記憶を個人から社会へ

1959 - 2009

1959年9月26日「伊勢湾台風」紀伊半島に上陸

そして今年で50周年

- ◎ 強大な勢力と最悪のコースにより、伊勢湾沿岸を中心に史上最大級の高潮が発生。
- ◎ 記録が残る明治以降では最大の台風災害。
- ◎ 昭和36年(1961)に「災害対策基本法」が制定されるきっかけとなる。

死者 4,697

行方不明者 401

負傷 38,921

住家損壊 833,965

住家浸水 363,611

耕地 210,859ha

船舶 7,576 理科年表による

家に水がザーと流れ込んできた。

家はミシッミシッと大きな音がした。

天井を頭で突き破った。

人が流れていくのが見えた。

助けてくれーという叫び声が聞こえた。

もう死ぬのかこれでと思った。

互いに名を呼び合った時が最後の別れだった。

家は土台だけ残して全部流失した。

二ヶ月水浸しだった。

地球温暖化との関係で台風の強化が話題となっているが、実は伊勢湾台風に匹敵する本土上陸台風は、1961年の第二室戸台風以来なし。昔の方が台風は強かった？